

平成27年度 第2回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会 会議録

日 時 平成28年3月24日(木) 午前10時から正午

場 所 大宮盆栽美術館 2階講座室

出席者 (敬称略50音順)

<委 員>

老川慶喜(跡見学園女子大学副学長)、立川吉朗(埼玉県産業労働部長)(代理)、石上城行(埼玉大学教育学部准教授)、大越久子(埼玉県立近代美術館学芸主幹)、小林正太郎(株JTB関東法人営業埼玉支店交流文化事業チームマネージャー)、田端フサ(ぼんさい遊々副会長)、森紀与子(盆栽愛好家)、柳澤美香(東日本旅客鉄道株大宮支社営業部長)(代理)、吉田俊一(埼玉新聞社編集局次長兼ニュースセンター長)

<事務局>

藤澤英之(さいたま市スポーツ文化局文化部長)、庄司洋子(大宮盆栽美術館館長)、田口勝一(同副館長)、五月女正人(同参与)、山田登美男(同盆栽管理官)、渋谷仁(同主幹)、田口文哉(同主任)、林進一郎(同主事)

【次第】

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 報 告

- ① 平成27年度大宮盆栽美術館事業について
- ② (仮称)盆栽アカデミーについて
- ③ 新資料の購入について
- ④ 平成27年度入館者数等について

(2) 議 題

- ① 平成28年度大宮盆栽美術館事業について
- ② 世界盆栽大会へ向けた取り組みについて
- ③ その他

4 その他

5 閉 会

<配布資料>

- 書類番号 1 平成 27 年度大宮盆栽美術館事業について
- 書類番号 2 (仮称) 盆栽アカデミーについて
- 書類番号 3 新資料の購入について
- 書類番号 4 平成 27 年度入館者数等について
- 書類番号 5 平成 28 年度大宮盆栽美術館事業について
- 書類番号 6 世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

【会議内容】

3 議事

(1) 報告

- ①平成 27 年度大宮盆栽美術館事業について
- ②(仮称) 盆栽アカデミーについて
- ③新資料の購入について
- ④平成 27 年度入館者数等について

(意見・質問等)

①平成 27 年度大宮盆栽美術館事業について

委員：国際盆栽シンポジウムについて、外国人の参加者が全体の 1 割程度だったが、その評価について伺う。また、登録ボランティアガイドの人数と活動内容についても伺う。

事務局：国際盆栽シンポジウムにおける外国人の参加者は、35 人であったが、大宮盆栽美術館の年間来館者数における外国人来館者の割合が 5%程度なので、シンポジウムにおいても、それとほぼ同じ割合であると理解している。

また、大宮盆栽美術館の登録ボランティアは、現在、18 人おり、毎月 1 回ボランティア研修会を開催し、ガイド技術の向上を図っている。ボランティアの中には、英語でガイドできるものもいるため、英語研修も実施している。

委員：国際盆栽シンポジウムのさいたま市民の割合はどの程度か。

事務局：2 割程度。

委員：なぜ都内で開催したのか。また、もっと外国人が参加しても良かったと思うがどうか。

事務局：都内で開催することは、メディアへの発信力があるためであり、盆栽文化の普及・啓発に適していると考えた。また、外国人の参加者については、ヨーロッパ方面が多かった。もっと、アメリカ、中国等からも参加いただきたかったが、会場の席数や通訳の都合があった。第 1 回目としては、会場がほぼ満席であったことを考えると、及第点ではないかと考えている。2 回目が開催される場合は、さいたま市内の会場を想定したい。

委員：このシンポジウムの動画は、どこかで放映しないのか。

事務局：著作権の問題が一部あるが、処理を行ったあとで、世界盆栽大会に向けて放映したいと考えている。

委員：来年の世界盆栽大会に向けて大変勉強になった。特に、盆栽愛好家の外国人の生の考えを聞くことができて良かった。今後に活かしていけると思う。

委員：シンポジウムに、子供のパネラーを入れても良かったと思う。または、子供の盆栽をロビーに展示しても良かった。盆栽ジュニアの学生も一部参加できたが、参加したい学生ももっといたが、会場の席数の都合で参加出来なかったのは残念だった。

事務局：今後の事業の際には、モニターで対応するなど、人数の受入れを柔軟にできるようにしたい。

②（仮称）盆栽アカデミーについて

委員：上級コースからスタートした方が良くと前回の運営委員会で提案したがどうか。また、1日限りの観光的なものではなく、アカデミーを行う目的をはっきりとして、市として事業を行った方が良くと思う。

事務局：実績を積んでいかないと、募集をかけても集まらないことが想定されるため、まずは、初級コースからスタートすることにした。今後、アカデミーを実施するにあたり、周辺の盆栽園と十分に連携を図って進めていきたい。

委員：講師次第だと思うが、初級コースはどんな内容になるのか。

事務局：現在策定中の（仮称）盆栽アカデミー事業化計画の中で示していきたい。

委員：運営主体はさいたま市とあるが、大宮盆栽美術館との関係はどうなるのか。

事務局：開設当初段階は、大宮盆栽美術館の下部組織になる。

委員：初級コースの内容が分からない。内容を示してほしい。

事務局：（仮称）盆栽アカデミー事業化計画をまとめているので、次回の運営委員会では、示すことができると思う。

委員：盆栽アカデミーの組織体制はどうなるのか。よほどのマンパワーがないとできない。人員を増員しないとアカデミーを実施することは難しいと思う。

委員：盆栽アカデミーを進める上で、盆栽を管理する盆栽技師の増員は必要と考えるが、事務局の見解を伺う。

事務局：昨年も人員の要望はしているが、なかなか難しかった。この夏以降も来年度に向けて人員要望をしていく。

③新資料の購入について

※委員より意見等なし。

④平成27年度入館者数等について

委員：教育施設等利用について、地元の植竹小学校5年生が、学校で盆栽について学習・研究しており、発表する内容は驚かされることが多い。他の小学校でも同様に、盆栽を取り上げて学習する機会を提供することができるのではないかと。

委員：毎年1月には、武蔵一宮氷川神社に多くの初詣客が押し寄せるが、その参拝者を

大宮盆栽美術館に誘導できないか。

事務局：今はまだその段取りはできていないので、武蔵一宮氷川神社とは、ミュージアムヴィレッジ大宮公園の会員同士として日頃から連携しているので、今後、検討、提案していきたい。

事務局：盆栽の落葉した冬の姿、いわゆる冬姿は人気があるので、もっとPRした方が良く考えている。冬場の来館者増加のために力を入れていきたい。

事務局：冬姿は素晴らしい。盆栽の樹の種類もたくさんあるが、当館では、まだまだ樹種が少ないので、増やしていきたい。

委員：世界盆栽大会が開催される平成29年は、武蔵一宮氷川神社において、150周年祭を行う予定なので、さらに連携を深めてほしい。

委員：世界盆栽大会開催に向けて、記念グッズを作成すると思うが、記念切手はどうか。特に、子供の盆栽を切手にすることは夢があって良いと思う。

事務局：世界盆栽大会開催時に、過去に、記念切手を発行している。郵便局に相談すれば、以前と違い発行しやすいと思う。

委員：ミュージアムショップにおいて、まめな盆栽を購入できるが、他のミュージアムグッズも検討して、美味しいものを扱ってほしい。

事務局：現在、まめな盆栽が単価も安く、当館では一番売れているが、今後検討していきたい。

(2) 議 題

- ①平成28年度大宮盆栽美術館事業について
- ②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて
 - 1 (仮称) 盆栽アカデミーの名称について
 - 2 盆栽庭園の改修について
 - 3 世界盆栽大会記念特別展について
 - 4 世界盆栽大会の概要について

(意見・質問等)

①平成28年度大宮盆栽美術館事業について

委員： 秋季特別展「盆栽愛好家・磯野波平」について、伝統と革新というキーワードがあり、盆栽は、昨今、アートとして捉えられているのに、今更、波平さんを取り上げて、シニア世代の趣味としての盆栽をあえてクローズアップする必要はないと思う。このため、展覧会の中では、入口は磯野波平でも、現在の新たな盆栽の取り組みを示していければ良いと思う。

委員： 大変おもしろい企画だと思う。高度成長期を取り上げるのは良いが、時代のバランスを考え、政財界のステータスシンボルとしての盆栽と庶民の趣味としての盆栽、この対比が、うまくコンビネーションできれば良いと思う。

委員： 切り口としてはおもしろい。盆栽の裾野を広げる意味でも良いのではないか。ま

た、今後の企画展については、盆栽界において革新的な人をもっと紹介してほしい。また、国際盆栽シンポジウムのスライドで見た中南米やアメリカの盆栽など、普段見られない世界の多様な盆栽も展示してほしい。

事務局：過去の世界盆栽大会において、展示したことはあると思うが、気候条件等の問題があり、当館で展示するのはなかなか難しい。

委員：訪日外国人は、1,000万人から2,000万人に増えている。世界中の観光地において、美術館はツーリストが訪れたい観光の名所となるので、外国人が増加するよう、そこを目指していく必要がある。そうすることで、来館者数についても、中長期的な広がり期待できる。アジアにおける文化レベルも上がっているのも、アジア、中国なども訪日の対象としている。よって、今後は、外国人にも分かりやすい企画展を開催することも必要かと思う。

委員：埼玉県は、インバウンドに力を入れている。今年度の新たな取組として在住外国人に「LOVE SAITAMA サポーター」になってもらった。サポーターには、モニターツアーに参加してもらい、埼玉の魅力をSNS等で発信してもらっている。さいたま市でもツアーを行い、埼玉県立歴史と民俗の博物館、武蔵一宮氷川神社や大宮盆栽美術館の周遊コースを体験してもらった。また、このコースについては、都内の外国人向けの旅行会社にもPRしている。外国人はJRパスを使うことができ、新幹線も利用できる。大宮は長野からも近い。また、初めて盆栽を鑑賞する人にとっては、解説があるとより楽しめるし、盆栽のファンになってくれると思う。ボランティアで解説してくれる人の中に英語ができる人もいるとのことだが、こうした人達を育成することも大切だと思う。

②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

1（仮称）盆栽アカデミーの名称について

事務局：名前の登録は必要かどうかについては確認する。

委員：このままで良いのではないか。

事務局：盆栽アカデミーの「盆栽」の正式名称は漢字で、「BONSAI」をサブにする考えもある。

事務局：春花園BONSAI美術館は、観光ビザで、イギリス人が4、5人修行している。盆栽に関するアカデミーは、現在、行政主導の施設がないので、春花園が行っている。

委員：知識と技術を伝える点では、もっと固い名称でも良いのではないか。漢字でも良いと思う。〇〇学校でも良いのではないか。美術館の役割としては、見る目を育てることが重要になる。

委員：「大宮盆栽」というキーワードがあるので、世界に発信するステータスならば、大宮盆栽と出した方が良いと思う。